

バスのあした

特集の「その後」

地域住民の期待を乗せ、昨年春に発進した町営バス北部路線試験運行を終え、4月1日から本格運行がスタートした。具体的何が変わったのか、なぜ変わる必要があったのか。そのあらましについて紹介する。

北部路線のおよらい

町営バス北部路線は昨年4月1日に運行を開始した。「巡回型」と「デマンド型」の併用による運行方式を採用。町の中心部から離れた地区が多い本町の実情を考慮した。

平成21年度中は試験運行と位置付け、利用状況を見ながら課題点を探り、平成22年度からの本格運行に上げる方針とした。

北部路線運行開始により、合併前から運行している南部路線と併せ、町営バス路線網は町全域へと広がりを見せた。

北部路線の特徴ともいえる2つの

運行方式。一つは、大井川鐵道千頭駅を発着点として、北部地域の中心部を巡回する「巡回型（3ルート）」。

もう一つは、点在している地区と中心部を直接結ぶ「デマンド型」。この2つの異なる方式を、1台の車両で運行した。

デマンド型交通を採用した理由。

それは、巡回型では点在する地区すべてをカバーするのが困難だからだ。本町のような山あいの町では、ルートが長大になってしまい、1便に時間がかかり過ぎてしまう。誰も乗っていないでも時間どおりに巡回しなければならぬなど、デメリットも多かった。その点デマンド型は、タクシーに近い運行方式であり、点在

する地区に直接向かうことができ、本町に適した運行方式といえた。

デマンド型は巡回型と違い、予約のない日は運行する必要がない。このため燃料費など、経費の節約にもつながる。

昨年試験運行された北部路線のデマンド型では、月曜日は〇〇地区、火曜日は〇〇地区というように、曜日によって出向く地区が限定されていた。

このため「病院に行きたい」「買い物に行きたい」といった住民のニーズに、柔軟に対応することは難しかった。車両1台で、巡回型もデマンド型もこなしながら、できるだけ多くの予約に対応できるようにと配慮した、苦肉の策ともいえた。

町営バスは育成途中で

昨年の広報かわねほんちよう4月



号で取り上げた「特集バスのあした」。その

の序章で述べたように、バスという乗り物は、住民ニーズに合わせ、地域の実情を踏まえ、その運行形態を変えていくことができる。いわば「成長する乗り物」である。

昨年一年かけて実施された北部路線の試験運行と次ページで述べるアンケートの結果によって、運行形態は大きく変化を遂げることとなる。本町に一番適したバスの形。それは今も「育成途中」だ。

北部路線の実態調査

北部路線の試験運行中の昨年12月、担当課では「北部地域における交通施策に関するアンケート調査」を実施した。北部地域の交通実態と、町営バスの利用状況を把握するのが狙い。総合支所や本川根診療所、いやしの里診療所などの来訪者に対して実施された。

調査に協力してくれた116人のうち、「北部路線を知っている」と答えた人は11人。運行から約1年、北部路線の周知については、ほぼ成功したと見ていいだろう。しかし「利用しているか」との設問に対して「ある」と答えた人は17人。約8割

北部路線に何が必要だったのか

試験運行実施中の昨年12月、北部地域で3回に分けて公共交通に関するアンケート調査を実施した。巡回型、デマンド型双方について、見えてきた「改善すべき点」とは何だったのか

の人は「知っているが利用したことはない」という結果だった。その理由を見てみると「利用する機会がない…35人」「自家用車の方が便利だから…32人」「できるだけ徒歩で移動するようにしている…12人」「自分の都合とダイヤが合わない…12人」などの回答が多く見られた。ただし「運賃が高いから」という回

答は一つもなかった。アンケート結果を総括すると、北部路線の存在についてはほとんどの人が知っていると見てよいようだ。運行から1年、各戸回覧や広報紙などによる周知が効果を上げていっていると思われる。実際にまちなかでバスを見かけた人も多いということもあるだろう。にもかかわらず、利用した

ことがあるという人の数は、約7割にとどまっているのが現状だ。

町営バスの場合、行きはよいが、帰りが時間が合わなくて困る。1時間以上待つくらいなら歩いて帰るか、タクシーを利用した方が手取り早いと考えている人が多いようだ。

利用目的については「診療所へ通院する」がもっとも多く、ここに重点を置くダイヤやルートの再設定が求められていると判明した。

町営バス以外の交通手段であるタクシーや外出支援サービスなど、利用者は、その場その場に合った交通手段を選択しているようだ。

●町営バス（北部路線）に求めること・地域住民の声

利用者が少ないので、もっと増える方法を考えて（千頭など数人）
町営バスを継続して欲しい。なくなったら困る（桑野山など数人）
徒歩や誰かの車に便乗するから必要ないが今後は分からない（奥泉など数人）
行きはいいが、帰りの便は時間が合わなくて利用しにくい（小長井など数人）
急に利用したいときにも使えるようタクシー的な運用を（奥泉など数人）
車を運転できるので、特に関心がない（大間など数人）
南部地域のバス路線とも行き来できるようにしてほしい（小長井など数人）
バス停が自宅から遠いため不便を感じている（寺馬など数人）
デマンドの曜日指定と自分の予定とが合わない（柳三など数人）

北部地域における交通施策に関するアンケート

調査日 平成21年12月16、18、21日
調査箇所 総合支所、本川根診療所、いやしの里診療所、JA本川根支店、福祉センターの5カ所
回答者数 116人
(うち男性35人、女性81人)

